

平成31年度 港区立南山幼稚園経営計画

1 目指す幼稚園像

港区立南山幼稚園は、独立園となって3年目となる。園児数は、3歳児25名、4歳児26名、5歳児20名で総園児数71名である。隣接する南山小学校では国際学級が開設されて3年目となり、その影響を受けてか、本園には外国とつながる幼児が各学年とも在籍している。また、初夏を中心に外国人幼児で短期入園の希望も多い。

今年度は、幼稚園教育要領の実施2年目となる。幼稚園教育要領の趣旨を踏まえ、本園での幼稚園教育における育ちと学びが小学校以降の教育の土台となるよう、また、地域に根ざし、地域と共にある幼稚園として役割を果たせるよう、保護者、地域、小学校・中学校など、社会に開かれた教育課程を編成・実施する。

また、港区教育ビジョン、港区学校教育推進計画及び港区幼児教育振興アクションプログラムと併せて、幼稚園教育において育みたい資質・能力を明確にした「南山幼小連携カリキュラム」「年間指導計画」を引き続き活用し、小学校以降の教育を見通した幼稚園教育3年間の教育を推進する。

目指す幼稚園像は、以下のとおりとし、幼児・保護者・地域・教師がともに豊かに育つための幼稚園経営を進める。

幼児の健やかな成長と幸せのため、
幼児・保護者・地域・教師がともに豊かな学びを創り出す幼稚園

- ①安全で安心な幼稚園
- ②幼児が遊ぶことが楽しいと感じ、自己を十分に発揮できる幼稚園
- ③保護者・地域とつながり、信頼される幼稚園

2 幼稚園の教育目標

人権尊重の精神に基づき、幼稚園・家庭及び地域社会の連携をもとに、心身ともに健康で、自ら主体的に遊びや生活に取り組み、よく考え、豊かな学びを創り出す幼児を育成するため、次の目標を設定する。

- げんきな子
- よくかんがえる子
- なかよくする子

3 目指す教師像

自分でよく考え、主体的に行動し、豊かに学ぶ教師

- 一人ひとりの幼児の心に寄り添い、指導力の向上のため、努力し続ける教師
- 自分でよく考え、主体的に行動する教師
- 失敗を恐れずに挑戦する教師
- 互いに実践を語り合い、学び合い、高め合える教師
- 保護者・地域から信頼される教師

4 中期的経営目標と方策（平成31年度～令和3年度）

- (1) 教育目標「げんきな子 よくかんがえる子 なかよくする子」を目指し、3年間の幼稚園教育を確実に実践する。
- (2) 港区立南山小学校と同一敷地内にある恵まれた立地と特色を生かし、小学校校庭、1階2階の保育室・遊戯室を意図的・計画的に活用し、園舎内外において幼児同士の関わりが深まる教育活動を充実させる。また、園舎・園庭・保育室の整備の改善をさらに進める。
- (3) 南山の教育を創造し、幼児の成長に喜びを感じ、幼児理解に務め、教職に携わる誇りと責任、情熱をもって教育にあたる教職員集団をつくる。
- (4) 地域に開かれ、親しまれ、園の教育へのよき理解者となっていただけ区立幼稚園となるために、地域への情報発信を工夫するとともに、地域の人々の教育力を教育活動に生かし、地域との信頼関係を強固なものとする。また、コミュニティスクールの開始に向け、学校評議員、小学校と協働で準備を進める。

5 短期的目標と具体的方策（今年度の取組）

(1) 社会に開かれた教育課程【教育内容】

- ① ティーム保育を充実させ、教員の創意工夫により、教育活動全体が幼児にとって明るく楽しい園生活となるよう改善と工夫を重ね、カリキュラム・マネジメントを実施する。
→・3年保育の指導計画の見直しと改善を図る。
・単学級の良さを生かし、全教員ですべての幼児の理解に努め、学年会や園内特別支援委員会で共有し、育ちを支える体制を強化する。
- ② 幼児一人ひとりの思いや願い、発達の理解に努め、言語・文化が異なる幼児も含め、保護者・地域の信頼の絆を結び、愛情あふれる保育を展開できるようにする。
→・日々の保育と週日案の記録を基に、個人面談や学級懇談会の内容の充実を図る。
- ③ 外国籍の幼児や海外から帰国した幼児など、言語・文化の異なる幼児も含め、一人ひとりの個性に応じた指導を充実し、多様性を尊重する態度を育む。
→・翻訳タブレットの活用、補助する保護者や通訳者を活用する。
・各自が英語力の向上を図り、言葉のみならず表情、関わり方など持ち味を生かしたやり方ですべての幼児とのコミュニケーションを充実させる。
- ④ オリンピック・パラリンピック教育を通じて、日本の伝統文化に触れたり、国際理解を促したりする。
→・「運動遊び」「外国人との交流」「日本の伝統文化に親しむ」を3本柱を本園の特色を生かした取組として定着させる。
・オリンピック・パラリンピック教育の掲示コーナーを学期に1回、運動遊びと関連させて写真等を掲示し、幼児・保護者のオリンピック・パラリンピックへの興味・関心を高める。

(2) 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を見通した教育活動の充実【教育内容】

- ①基本的な生活習慣を身に付けさせ、伸び伸びと運動しようとする意欲と態度を培い、幼児の健やかな成長を図る。
 - ・発達に応じて基本的な生活習慣が身に付くよう、学期ごとに指導計画や「家庭で大切にしたいことハンドブック」を活用して評価を行い、改善を図る。
 - ・学期ごとに環境マップや教材レシピを作成する。
- ②幼児が主体的に遊びや生活に取り組む中で、試行錯誤したり繰り返し挑戦したりする学びの過程を重視し、よく考えて行動する力や粘り強く取り組む力、思考力の芽生えを育む教育を推進する。
 - ・PDCAを通して、教員の保育の振り返りの時間や翌日の保育の準備に向けた時間を確保する。
- ③幼児同士が共通の目的に向かって協同する体験を重ね、地域の人や小学生、異学年など様々な人と関わる中で、豊かな心情と様々な人とかかわる喜びや親しみを感じる心を育てる。
 - ・日々の保育の遊びと行事とのバランスの中で、積極的に異年齢でかかわる機会を設定する。
- ④集団生活を通してよいことや悪いことに気付き、自分で考えて行動する態度を育て、規範意識や道徳性の芽生えを培う。
 - ・3年間の指導の積み重ねの先に「幼児期の終わりの姿」があることを見通して、聞くこと話すこと、約束やきまりの大切がわかることなど、意図的・計画的な指導と日常の幼児の姿から見出される課題に、適宜適切に対応する。
 - ・道徳性の芽生えに関する指導計画を学年会や園内研究会で活用し、確認する。
- ⑤「南山幼小連携カリキュラム」の改善と工夫を重ね、小学校教育との接続を図る。
 - ・年間指導計画の改善に向けてPDCAを着実に実践し、評価・反省を繰り返しながら保育の充実を図る。（園内研究会・学年会での指導事例の共有）
 - ・「小学校ぶらり訪問」を行い、小学校の授業や壁面環境、教室環境を参観し、学びや発達の連続性について学ぶ。

(3) 保護者から信頼され、地域に愛される魅力ある幼稚園づくりの推進【家庭・地域】

- ①保護者参加の園行事、PTA 活動の工夫・改善に努め、共に子育てを担うパートナーとしての関係を磐石にするとともに、子育ての支援としてのサポート保育を実施し、家庭との連携を円滑に進める。
 - ・週2～3日程度、ホームページを更新する。
 - ・月の便りの行事予定の一部英語版を作成する。
 - ・降園時や面談、園庭開放時などの時間を活用し、保護者の気持ちに寄り添いながら、幼児の成長を伝えたり、発達の見通しを教えたりする。
 - ・保護者会や各行事で、幼児の育ちをタブレットや掲示物などで発信する。

②南山小学校、六本木中学校や都立六本木高校との連携、麻布十番商店街との緊密な連携を推進し、地域の幼稚園としての信頼を得られるようにする。

→・商店街の方と味噌造り、こいのぼりや七夕飾り届け、高齢者とのかかわりなど、園と地域とのかかわりを継続させる。

(4) 安心・安全で魅力的な教育環境の整備【施設・整備】

①日々の園生活において、職員の間環境美化と危機管理意識の高揚を図る。

→・職員室で心地よく仕事ができるための、事務整理など週1回のクリーンアップタイムを実施する。

・安全な登降園ができるよう、職員による見守りを継続し、交通安全週間と合わせて幼児・保護者に学期に1回、門や玄関などの使い方を指導する。また、用務主事や警備員、PTAと連携を図り、幼児の安全確保を徹底する。

②幼児の安全な園生活のため、園職員による安全点検や安全指導の実施及び週1回の用務主事との連携を強化する。

→・用務主事、副校長、小学校教務主任との打ち合わせや連絡を徹底させる。

③小学校の校庭を積極的に活用することを指導計画に位置付け、多様な動きが経験できるよう園内外の環境を工夫して、幼児の体力向上につなげる。

→・縄跳びやボール遊びの継続、オリンピック・パラリンピック教育における運動遊びの内容の充実、教材の開発に努め、実践を継続させる。

④園庭の畑、花壇、南山の森、都立六本木高校の畑など、意図的・計画的に活用し、幼児に季節感を味わわせるとともに、幼児の知的好奇心や思考力の芽生えを培う。

→・六本木高校の畑や校庭に継続して出向き、自然と関わる時間を確保する。

(5) 互いに高め合う教員の育成【教職員】

①各教員が自己の保育の課題の解決に向け、失敗を恐れずに指導の工夫や新たに挑戦しようとする意欲をもつ。

→・園内研究会で環境マップや教材レシピを作成し、活用できるようにする。

・戸外での多様な動きを引き出す遊具、場の使い方の工夫などができるように教材の開発に努める。

②自分の保育に対する説明責任を果たすとともに、互いの指導を語り合い、チーム保育を充実させ、各教員の相互の創意工夫を重ねる。

→・学年会において、OJTの時間を確保し、互いの保育の見通しを共有する。

・事務職員を活用して教材の準備を計画的に進める。

③自身の仕事に主体的に取り組み、全体を把握しながら園務分掌の遂行する力を身に付ける。

→・ホワイトボードを活用し園全体の仕事量の「見える化」する。見える位置に掲示して職員間の情報の共有化を図り、互いの分掌の進捗状況を把握できるようにする。

④自身の生き方をしっかりもち、家族・家庭を大切にするとともに、心豊かで心身ともになやかでたくましい人間になる努力をする。

- ・働き方の意識を変え、ワークライフハーモニーを大切にし、自身が心豊かな教師となるべく、遅くとも午後7時までに退勤、毎週水曜日は午後6時前の退勤を目標とする。
- ・サービス事故防止のため、学期始及び月1回、サービス事故防止研修を行う。また、都や区の資料やプレゼン資料を使い、サービス規律を遵守する態度を醸成する。
- ・自身の自己研鑽や感性を磨くため、長期休業中の園外の様々な研修の参加を促す。